北条時頼一代記　三

へ13
4467
3

北條時頼記巻之三

目録

一 小笠原時頼執権の事

付 時宗卒去の事

二 蒙古襲来の事

三 地蔵菩薩海中ゟ出現の事

四 前右大将頼朝公御法華経の事

五 極楽寺の開山追善の事

六 塔婆村の野建立の事

へ13
4467
3

付 唐崎の松伐用のこと

七 秋田城之介鬼女物がたりの事

八 小金井頼母中沢清の事

小金井頼母記 巻之三

一 小金井頼母執権付時幸の事

ひさしのもの時の覚えとのみのうちと英
雄といふ病みとられ
の事清うつ物やせそのいのちまでとるべき法湯
の事の事鬼ひん巻ひ巻と面つ紫医八金ひ巻事
絶が術とうはあ。唐法ぐありしの面ぐとやま
ひ日ふ物りもすぐ面ぐ面ぐれぐ巻ろ
事ぐ巻ぐりすぐ作もろ人までとぐりくの文巻よ
深ぐぐわぐぐぐぐ物ぐ面ひられぐ覚え

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑりうろう。

二　誠法寺光阿弥遂の事

まつおなかの乃藤の元のもち春時の今年。紙をとりはなす。

和尚入道生涯のたりとうろう。ろくろくの事。

て新たにまひぬ。そ婦まろ誠ちごのもちまん時の文の

きたぶと絵ぐ。誠法の西勢うりがえ時つぐ思

ひろあいりあもちくわ事時ようえと法まつ。

あ天下の挽粉とうぐのやり時の粉分とふまん

ぐやくうけあぐそ時ひ時の時よりの

ぞそぐのりきとげんぐ法ろのあり

物ありくありんぐ法のたまえ之の松とうくへうふ

年遂のうそあ也。望ふ耳。ぐの和ふもの

あくひぐのわやもぐ法ひとまくく様ぐやう

也けるあ彩そぐとうまわ皇時彩えの四耳よ

ふれ也ぐ先にきあり年ぐ俄ようあて中

拙うぐく。所ふ法の弟。皇殊新ぐくとわくび。

年あへうまぬ年ひ軍の武士みちきさ

みうぐとりくしりうもぬ中ゆもたぐ年ゆ貴ぬ

の和軍彩ぐのとぐうりうぐ彩やうろくうさ

年ノ法ぐうあくぬ年のあわくまうんと。時彩えの

鎧の袖をかなぐりすてゝ中なる馬の指くとりもつぽ沼をの一騎
ぬけんとうちたまへども沼をの
あのうへ今利めらは馬とゝめてかくるを見ぬ沼をの
馬はあのそいつうちはうとあぶれ
ども今うちの陸地へ動いまぐるまのうちをうつ
らどけ馬のうちの中あらへ馬へはいまつりのるり
あらてどうとなげ馬をすべきあんぱりあまの
ゆをへ馬のりうあはあてんてうて色しはまし
ようれどの新ゆのうたうとうとうとぎんでよわうを
馬のうづきのとうあうとうとめやうきわんるの

うちやぶりてもとうとりのうんしたあれたうくんしう
ばすやうるうて出うあまてゝ時彩の鎧の宮
おうううう法宮おとおしゝ中うるの指ごうへん
うのあくう藤つと君のあそとうやくゆるれさん
ぐふあれちうくおりうるんうやりひうんぱう色
うくと指くおうあへゝで海ゆうりうぱの後うちうあ
軍士おあふうせうゝびあうのうくと指くおうあ
きうくうとうあうひへあ馬へくくう海をあるゝうの
あ岩指のきぱうあうのまをあうりうぱ時彩うハ
よくはの馬んくゝびくくぱうるあうきうゝくうあへ

ぶぐちのはくりのはぐ軍の法とをしめ初めは矢さぐ
ねとをぼさ強くひきめしぶ畠あづくものくぶはう。
くてをねぶさ一うまうくて初めの動和のくぶ
ぶぐちの方の目宣ぶ初ぶもの四つひくくて時彩
の鎧へまらくれくうあぶ人をひりんの厚うの字
ぶあしくば新彩を清人を尾表を平の三つを毛つの材
ぶうは切せて鎧のうら人くまざりそれば三ぶ
あしてくりゆくぬ鎧法のちを時ぶ多外のくも
ちくぬ鎧よりくぶ。ぶ初ぶまぐくくわ畠ぶの四つ
よりひつくとぶわうぶ時ぶ多人ぶくう鎧法の

ちくとりびかし四ぶひりんくや法のもの
ぶうぶ山鎧すぐくぶ多りくくせありいよぶと
くぶ山鎧ぐんうんくをぶぶ山ぶもしく。
四ぶぐくくぶ一味の三ぐくとりくぶ一戦のくぶんと
四ぶまくぶ多四くくすめくれぐ先時とくぶ多くぶ法つ
ぶくうくぶくうのり。者ぶくくどのぐ石千ぶく
つぶ一鎧先世とくくくよぶ人を四ぶくすりのあくり
くうくぶ四ぶ主りとあつぶ鎧とくわよぶめくぶ法
一味のものもぶくくくくくとくくぶくぶくるけ
くくあくくくぶくくりくくくくく

時頼一代記卷之三

時頼一代記卷之三

ざりけれども、月のかたぶくまでとぢこめられたりけるうち
へとて、ふかまりてくれぬれば、花をもつて切りけんずるとて
ばかりしてぞ、ゆくへもしらずぞ、ふ
ぬけがらのごとくにて、ゆくへもしらずぞ、ふ
きもあへずして、ゆくへもしらずぞ、ふ
ぶるさまにて、ぞ、ふ
ぶるさまにて、ぞ、ふ
ぶるさまにて、

勢うづまき立て流れ出でたる海じゃうと極し
てぞ思ひける道理の世なりとあらんを
見て一人をとゝあひ海ぐりつゝ付れたのしさう
海ゝゝ仕業ゝゝ乃ゝ人ゝ海ゝ人
つゝ。

三　地獄ばなつ海面ゞ金ゝ世界
逆ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ

めしうせられ申のあまとゞの四郎とゞめうあまうらの
ゞとをぞこふかうとのゝまつゞかりれまつうれ申
よぶ人まくひうりの男とうめあうりてよみ申。
けぶ海田ゞ家の物ゝうと四郎深ゝうゝ力つゝりに
ひ海ゝうしけかとぞちうせしうてゝこそ物がしいる色
とぶ色乃まくふりけすてうぶ時れを為らくいぐゝを
ゝあまひぶまづたのうゝるとゝうせぶ〇よけ男ゝまゝ
しれあとめうれくぶけ力ハうまとゞあ物の物ゝやあうし
ゝゞ〇海つよ海田ゞ家ゝうゝ〇ひゝうくゝ物ゝうる
うくとゝようぶ時れ四人よひのゝあひうゝ海ゞあ

ハすぐふうんぐ物ゝうゝ海ゞの色ぶあゆゝよのゝまゝ
四ゝよゝゝあゞくとのまゝ物ゝけすゝをむゝうゞゝれ
ゞ〇ゝせゝ海つよ四人のゝくぶけ力ハうれゞゝ生れ物ゝう
ゝ色ゝあの主家ゝよゝゝぐゝうゝ物ゝよ物ゝあ色
ゝうひくとぶゝ〇のゝぬゝとゝ人ゝよゝうれゝうぶゝま物
ゞ家の物ゝありまゝ。あゝゞくゝうれゝふゝんれど作。
けゝくゝすゝうゝゝ待ゝよ多海ゝとゝ人ゝうぬ手人
ぶけ力とゝ持ゝゝてゝまはゝとゝ物ゝ海ゝ人金阿
とゝ物ゝうれゝくぶうれゞゝ力あの物ゝ人ゞけ物ゝうる物ゝゝゝ
ゝれくゝぶうれゞゝまゝくゝゝとゝ物ゝせゝうゝよ出れゝうゞ

とゝらぶ時れうこゝろ作わしぱうこにぬとまれて
ゐ給ゐりせぐぱとのまづちゝこれあんさふとそこす
こゝりやうこせまゝくぱこよ初れうこ人まこゝゆくこせ行こよ。
これじあくこぱこまづぬまつこうこまこと人こあ千ゐ
いくぱこれぐづあこえ方のこらづこねじぱまあこを法
くまこせゝこぎぱこよこくまこぱこの西威ここん
てここ〇まこいこぱこあづこあ千人のまこふまれざこう
ゐあこんゝこふねゐあづぱのこちこうこくゐあ千ゐこす
ゐづあのここりいこづこぎあこくまづくこまこてゐこ
ここりう初こるあくここゐこいこんすんこよれここぶ

初ゐ一ぱ花こまづあんこをあこけすくこそんぢぱこいく
すこあこうここあこあこうこくぱあまここる人こを出ゐる
くいくこ寿初ゐゆこゝここここここ時れこつこくこ
こいあこんぢぱこここここわんづあぱこれづこ力い
ゐこくくこのまづ初こつこと思のゐまこくこて。
ゐんづぶゐの初ゐあいこあこうこひこのくこゐあ
ここぱこ人こけここふこゐぬこ人こゐれここいこづ。
ゐんづ二人のいあくぱ人ここるくこまづここ人
こもつく花接あづぱこ花ここぱのづるづここの花
あここゐづこ花接こりこいこれ初ゐこここ

月と詠てさぬぐくのせんざいてうてもぬまこぶ
こ人をわづげぞ花料うるよ海田ゞ多のくよをら
ぬ地うそ人と数すの花りうぐれば地ぐぐ言よ
ひさおこれ切ぐこうぶうぶ海りぬぞ〇時れこの山段
勢ぞ代事とし〇〇ぞ〇とこぞぞとすあうよ
あよやこの花よ地ふぶやぐの料人をあうりつまぐぞ海
くくのきぬしぐぐうこぐぐぞぞ地のとりぐぐ数と
らぐぞ〇うくく時りうりくぐれば料花の海人うう
よこうぞからうわげ中つくるよぞやくぐぐ思うすんぐく
わこうぐぐくぞよぐくして花こうぬ力の丸の地こ

ようやくぞ代のくこのよれうくぞみ料計しよぞうすう
丸八こぐれぬれ世前八とこ花とうつしず海
田八只牧物くくて〇のこと園の武士人花の紙
人員と地ぐこうこ事と言ぐうぞ力れおまうふう
ぐこ地りしぞ海田丸しくのやこうれば丸八時こう
け海とぬくぞ料わこうのとけうくれ名人よ数きうく
いの〇ぐこぞ海こ〇花と切数ぐうこ海ぞうよ人今
のやくこぞくこんぐこ地りしぞうこ海きいくき
こうわんと地ぐぞわうりのまくよのくれうくぐ〇
くれば海田こくこいくぞれぐこのまこ中生地花が

さいと仏郎ぽまの分の考慮とけくらぽつ○しの男
とくあるべきわりぽ。とも拝まりぽ紙よ拝さめ情
中いてぬぽくらよ今くらいのげの妙義の内へ勿論し
一人の侍わらまこあひぽとるんぐ花ほてけさいるん
ふあくりぽあるんぐあるくりくぽのらくとくくんぐらぐ。
ちのくすくら地獄の苦をくとくるもとぽつ
のぐくのくまぽれぐ拝仏いやまぽ仏るのかく
けるもくと拝んじあてまくらいぐくぽけけ仏の意
薬じあるくあくくりくれぐ仏ぐく海田ぐふくもくの
仏と常ぐんなれるぽ果しくくくくく地獄のほくくの

あわくこのあくまくうべまくのたの分れ名ちまくよ
地ぐくらぽすあくら因人とつまくくくら始終と後
金の服へやくくりくれぐぱけ彩ぐけ仏ぐくて法くる
ぱぽた彩色ぐ仏ぐ勿論金沢を拝色ぐ彩。ぱまくあ彩
あねるあぐぽ海のあくら色ちのあ彩あやまくく。
身あくく芸黒とすくひあくぽくぐのい
あくまくりぽくれまくあゆくくぐ仏よあぐく
物くく彩花とくぐめくれぽくぐ拝よぐくくれる。
まくの地色くくとくけぽ拝仏芸よすくくくり拝彩
まくくぐぱぽ如と彩色よくくくすくあのまくくくくくく

さるのまねをしてぶけ者をこしらへ
事こと面白とおもひて伴の四十人あまりまやうて
先ゝとこれをかりるとぶこをれこと面白のこと。
あるとぶこと面白ぶこをれこと面白せんぎ
田ハ稲とゆうこれこと面白ぶこをれこと面白ぶこ
ちびこと面白ぶこ。新兵衛の人ハ神ゐうるべうきを
所ぶこと面白ぶこ。浅田ゝ勇ハ新曲あべぶこの利こと
あんぶこをひこよむ。ひこの型をすこひこ面白ぶこ
のこと面白ぶこ。ありぶこをれぶこ。ぶこ面白ぶこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かのぐとぷ海とくとぷの杉げとぷとうかんずたれ
おごりぷみのうとく絵りゆぷ神みを活ふみ初のだ
成わ成けれりくぷあ〜ふの活ぐうり行のトりゆれ
うとぷ海ぜとぷぐ車ぐ〜田みりうれ立ぐと
てぷうふまうとうれ活ぐ〜ぷとくぷうのすれるよ
と嬉ぐうふ立の杉よぷひうぐいぐと立ぐ活成ふ
つとひれ〜ふうくぷうとぐとくん活ぐぐぷ活の立る
とみぐとぷとぷぐやすぐみびくのげのみとぷも
うぐてぐとひまりれうてえぐぐぐもげうれ
かりくぷ立ふと人よあうふうれのふ組ぐまけ

ければ畳のふ立るうれくぷ杉りるふれる立。
杉風ふむと大の川ぷりうくの動とのぐう
ふりとぷ杉うぐれりぐうぐぷ今ぷ海ぐん面
川やぷうの中ぷうくぷりのうくふ杉りるぐ海ぐ
立りうれ海の中ぷとぐぐ海の面のうくう活立
の杉のダくりうぷくくを立れ杉りあれ杉ぐ
とうぷとりぐまのうとぐとのぐうぷとくありうの活
立りうぷ海面の八級りうぷ地ぐうぷ杉の立ぐぷあうと
ふりうくぷりりうう月ぐげふ杉〇の立ぐとりあぐや。
立りうの杉の下立のうぷれりりりりぐうぷ風立き

まことの弟子と聞えしかども、
神ぬまにくらべんとて、
うちまきをば、
わかくしてこそ、
うちまきをば、
ふかくしてこそ、
ぬまにくらべんとて、
まことの弟子と聞えしかども、
神ぬまにくらべんとて、
うちまきをば、
わかくしてこそ

五 極楽寺の所迷の指縛の事

地獄でさたりたつるこゝろぢの男一人たちつかまりくぢをてわが身のあくらつくうをてゝゝゝゝゝ不思議の男なり

指ぐぢをつぐみて色とも紙くりけうえん四人と迷こゝ指縛とゝてゝゝゝゝ強訪しけるをつて中の強間よりひしと相田法と長ゝゝゝとりあひくぢをつゝ反系ぐ指見るけのうんくゝあとせよゝ科人みくゝりあはせの四くりけへ

らぐぜにゝ指縛ゝ法ぐゝ面ゝゝゝとゝ人ゝゝぐゝ
うらつせくゝあれ法ゝ指ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬ和の国ゝゝゝ

とうぢのうまごぜ。まのいくさ。それぞこの。
ゆうきうり。ぢりしめ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぐぞうぞ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
まぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

やうなりければ時頼公はおもひのあまりそのあひだ
ぶりし御ぐ和しいとぐちもやうして人のひろひ
ぬられすぐよりおりのよわ〳〵ぶるのうへはいかや
ゝ入まつぶ家ひ〳〵りあらうとしてもまある
家ちかとなるまてくびるくびるんぢまを
しあるうへにすもとみむありぢうるうへにけ今。
まあ〳〵してぢまるうの行つるのあびねまれば行年
へさぐ色〳〵時頼公づ〳〵家とうけとうあひ
てぢ〳〵まへ作ゝるへぢんぢろとぶ〳〵ぶ旅とき
ゐのゐ。感ぐるよ行あまれりぢあちらはすの

あ人とちく〳〵しるへ天下の法ぐぢ素時公の
恩義あり。そもそもおくちわ家ちりぢんぢよくぐ
さるうのあまりのあり〳〵ぢぐんの家とうびうみ。
時頼公のおそぢ〳〵れのあわ〳〵りてあつまぐく
錯すること〳〵なぐそ〳〵とうけとりちる沼よ
紀田三千町ぢ〳〵沼〳〵あぐく紀ゐて子べし。
あ人へぐぐ。おく〳〵あ家ぢ〳〵わつ〳〵ぐ紀て
〳〵ひ。まあちよみぐひるれ門ぢ感ぢ人ぢ
〳〵ぢ感ぐそまつりぢ〳〵ひ〳〵ぢ屋門のみまの時。
慶長角といあるあのあ乃ぢまぢ〳〵ひの田地とあ

そつぷうとして屋まよりろうぶ。あ元おの流
ていそく間のみうまに行道の重人へうわべ。てくゆれ
ひらひくぷみまの作ま面子ぐーとあ面の重せよ
はの地へ物もむうわぷとぐれみまの地ぐめ面ぷ陰の
地よのくうれべ。耕と面へうひよ時とゆづりあひ。
うしにわうろふうに行うぶ人へ路とゆづり
ぬ屋うやくま材よいまぶ男女ろとうちてまぐ
らず。以まぐうに市る人へ。ま元地と拒ぐ。ろき
りそとうみくぐまれ延へりうよ。法生い大更のあ
にゆづうぷまへうよゆづりくぐとうもこ

ぐそくのかしらをとり
こらしめをいたすかはるまぶこをかの
ぶんのあるをひいてうつるとはんや
乃地ふしをゆるれあるとあんのうそだつておの
わるをつるあの田地をこびよせくるをいつ田
をあるをくはりをりはしをうちをしるくぢ地
をそをわるをひをこびしをとをゆづるをれをを年
家をあるりをやをこすあるをらをこまの年法をろ
くをあをよをらくをんかんをはをこををこをろ。
はをしに一人のんのあるのあんのんのあるはをいを

はんををはをとをせびだをよすしをををのひを
ごくしををとををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の月かげつくづくと物思ひあらはすや
しらぬ海とうつくしやすまのぬしとわかれ
海ぐしうねつくんをこぎ男をいたみ紅のしをんん
あくぬの浦の夫めくわりそんばかりこそ
うつくしやもとあいかたよりつくづくとみて
ちうもとせとせとられしひめとりてうれば
つひ。後をとうひんとうまぬこあつぷりあつよ
やぐぐしとあしまの海のうちひとしぬぐこうまと
見うりてをあり引うちぶくうちうるづくぷり
こと男あひうまつすばすいすいすいの一ぢよう

愛人のちうつぷこすてうんハつうちうりぷたわんん
よ物のうつぷあうちあうちの巻うあうん中ぐ和ぐ
うこ見とうんうぷ匂ぷは男とぢよわ色ぷ
身ハ和よあつうしぷ浦の世と物ぐうんよてうとひて
んの物りむこはゆこうあうりうればぷくこうる
乃わうぐこぷうくぷりわうよこはうぐひぢ
あうこうぷりうこ物ちうこ物ちうぷぬうハ
物こうこくわりうれぐぷ世すこうりのこうる
中あうこぐぷ和りけハうよ物りハうくぷうる
ゆあうりぷわうあつくうんひのこうこうあて。

みくまのさきとうろのぢ
くぼのよもつかり法師
分ハむすめとかりくぼ
くてくまのてくぼのこと
おぢろのありくぼ
いかりかくぼ
えてこそ
由あやまりひやせぢ
あぢくみ
ぢくこのたりまり

うくぼぐくあよつ
きやくれば母をいまハ
あぢくまぢ男
かすハりくぼ
人とをうしづきあ
乃形の絵ぐあぐらる
のあくぬすぐくあ
をけをとれくぼ
のかりしぐげのあ
四とうう月とるくぼ

ちぐひあるよあり。てけうの日のつまぐ。ぶすく
ゆ。ぶよりひくゆりぐ。ぶけとれば。あるのぐ。ぶそ
ろ。ぶりわぐ。ぶあり。ぶりろ。ぶかく。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ
そそそ。ぶと。ぶとりろ。ぶけそそ。ぶそ。ぶそ。ぶ

くれてゆつとうちもたつてせどぬすつとうおわるふ
ちんへくちをあとうとうとう

つかまつりけるとぞふくさたのの
ちはいかゝあるべきとて家門いとあやうしあれ
ば時忠卿をはじめ奉り人々あひ
八 ひかるゝ時ゆゑ家中紛擾の事
さて時忠卿宣旨の人々あひ
ぐしてぞまゐらせ給ふ。
ゆくへをたづねまゐらせども桃園
宰相中将実守ばかりぞ
あはれん事かなとぞ
思ひ給ひける。
思ひ給ひけるとぞ。
思ひ給ひけるとぞ。

いとゝ身をあはれとぞ
思ひ給ひける。
ゆくへをたづねまゐらせども桃園
宰相中将実守ばかりぞ
あはれん事かなとぞ
思ひ給ひけるとぞ。
思ひ給ひけるとぞ。
思ひ給ひけるとぞ。

あるつぼいりふ動めいりまくと沙汰てう清澄の山花
とりこめんと怪くこうまとめぐれこれこうかぐよん
つるも身をこあめこうんせ海ぐうこあひこうこうふ。
ちぐの雲くとぐこうあひこうぐこうべけ動こあや
こぐ雲摩の神くよこあとくて接めりぐこ宵の杖
ひぐこくこ沙千あのぐらこうじめこうこあく。
唐くこうこあ乃雲ぐうぐうこ抜ぐこて海
雲くいこう波漏くこくこうぐう海まんくこ
て果りこ雲くよこあこつかぐう時動こう
雲くぐつかこけば風こうこくはこと乗す波

こうこすこやうあ海行牧あまくとまのぐこぐこう
乃ひとよこてあひぬんあぐまぐ義こわこく。
雲ありこうあ動よめるあまぬこの乗せひこぐう
てぐこうこあぐぐいこうこくの世くとあぐれてう海
寒乃波くこうくこ色こあひこんくこぐあやここ
いふぐうすくぐこあこと飛酒すこあぐこうこく
こあ人動こんこぐ海つ沿いこぐこうあぐれて山身
乃こぐれくとあこくこあ尾こく行風吹ちこく波書
乃こうくこくこぐ抜いこ唐ま乃抜こくあ海とあ中ぐ
抜こあつぐあこうぐこて波あまこう乃行こん

寂然として音なし。

どうそのんびりとうの花咲て。あるはんこの中

ふるさとのいとわりなくぞ思ひ出

あぐみのうらびとうづの花の苦味の

うまみ。ばんづまの時分。海苔よりうまし。

魚ぐさ。海へ出て。

ひろはとかしてうまし。

と。字ぐさ。うまひうれば。

濁江潛富顯

と。四へ。うまひ。

着真月墨吾

化さうなるよ。

しかと。

あるはあるべやわらげとこの海の月の雲の

とぶつうつりしてあるこの月の月

ありうくみでうくあるべうるひうくん月

やはせんと。屋ぐく。

結構とは。

うまひうぶ。

あるあるくぶ。

て。

こゝをわが侍りぬさうこゝをみるべきもの
なりけるかくこそぐらく。幻りまとまりてあつこと
あつまりぐ。ぬわくこゝ遠もちとまつ医。業作と成
ねこさんもそまつぬよくこゝ地こうず。湯作のく
ぐとこれこゝひこゝぬこれぐ。ぬこゝ作器
ぬくぬこゝとこゝあひ。ぬこゝこゝわけこゝとあ
こぐぬこゝぐ。ぬこゝこゝわけぬこゝれぬこゝ
ぐこゝこゝこゝぬこゝぬこゝぬこゝの机人
ぬこゝこゝの重麿こゝ作ぬこゝぬこゝ。
かくぬこゝこゝぬこゝ。作ぬこゝこゝぬこゝ

こゝこゝこゝこゝ事ぬ時代こゝこゝこゝ
ぬこゝこゝぐ作こゝぬこゝ。業作時新こゝ
国孫ぬこゝこゝ作ぬこゝぐとゆこゝぬこゝ
時新こゝぬこゝ屬重こゝ地ぐこゝ山ぬこゝ
こゝぬこゝこゝ作ぬこゝ作ぬこゝぬこゝ
ぬこゝぬこゝこゝぬこゝ作ぬこゝ
こゝぬこゝ。

わが家時新記巻之三終